

## 再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課  
担当課長名：奥村 康博

|   |   |  |   |           |                         |
|---|---|--|---|-----------|-------------------------|
| 事業名   | 一般国道464号北千葉道路<br><small>きたちほどうろ</small>                           | 事業区分   | 一般国道  | 事業主体      | 国土交通省<br>関東地方整備局<br>千葉県 |
| 起終点   | 自：千葉県印西市若萩<br>至：千葉県成田市押畑<br><small>いんざいしわかほぎ<br/>なりたしおしはた</small> | 延長   | 9.8km<br>直轄：5.6km<br>県：4.2km  |           |                         |
| 事業概要  |   |  |   |           |                         |
| <p>一般国道464号は、千葉県市川市から成田市までの延長約43kmの主要幹線道路である。</p> <p>北千葉道路は、県西地域と成田国際空港との道路ネットワーク機能の強化・アクセス向上、緊急輸送道路ネットワークの強化、安全性の向上を図ることを目的として計画された延長9.8kmのバイパス事業である。</p>  |   |  |   |           |                         |
| H17年度事業化  |   | H17年度都市計画決定  |   | H17年度用地着手 |                         |
| H17年度工事着手   |   |  |   |           |                         |
| 全体事業費   | 約974億円<br>直轄：534億円<br>県：440億円                                     | 事業進捗率  | 92%   | 供用済延長     | 9.8km                   |
|   |   | <small>(平成31年3月末時点)</small>  |   |           |                         |
| 計画交通量   | 26,500～35,600台/日  |  |   |           |                         |
| 費用対効果分析結果   | B/C<br>(事業全体) 1.3<br>(残事業) 2.3                                    | 総費用<br>(事業費)/(事業全体)<br>116/1,191億円<br>事業費：108/1,182億円<br>維持管理費：7.5/8.7億円 | 総便益<br>(残事業)/(事業全体)<br>264/1,538億円<br>走行時間短縮便益：205/1,401億円<br>走行経費減少便益：41/108億円<br>交通事故減少便益：19/29億円 | 基準年       | 令和元年                    |
| 感度分析の結果   |   |  |   |           |                         |
| <p>【事業全体】交通量：B/C=1.2～1.4（交通量±10%）事業費：B/C=1.3～1.3（事業費±10%）事業期間：B/C=1.2～1.4（事業期間±20%）</p> <p>【残事業】交通量：B/C=2.1～2.5（交通量±10%）事業費：B/C=2.1～2.5（事業費±10%）事業期間：B/C=2.1～2.4（事業期間±20%）</p>  |   |  |   |           |                         |
| 事業の効果等  |   |  |   |           |                         |
| <p>(1) 道路ネットワーク機能の強化・アクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成田国際空港の国内旅客はLCC就航等を背景に急速に増加。</li> <li>北千葉道路の整備により、東西方向の道路ネットワークが強化され、成田国際空港へのアクセス性が向上。</li> </ul> <p>(2) 緊急輸送道路ネットワークの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「千葉県地域防災計画」において指定されている緊急輸送道路の一次路線のうち、千葉県北西部の東西を結ぶ路線は国道464号及び並行する国道356号、国道296号とも2車線しかなく、いずれも緊急輸送道路として脆弱。</li> <li>東日本大震災後の見直しにおいて、円滑な支援物資の供給のため、多重化による代替性を確保するなど災害に強い道路の整備等推進が新規項目として追加された。北千葉道路の整備により、災害に強いネットワークを構築。</li> </ul> <p>(3) 安全性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北千葉道路と並行する区間では、主要渋滞箇所や成田市中部で速度低下が発生。</li> <li>並行する区間の事故類型別の事故発生状況は、車両相互の追突事故が約5割。</li> <li>北千葉道路の整備により、並行する区間の交通が当該道路に転換され、交通事故の減少が見込まれる。</li> </ul> |   |  |   |           |                         |
| 関係する地方公共団体等の意見  |   |  |   |           |                         |
| <p>千葉県知事の見解：</p> <p>一般国道464号北千葉道路（印西市～成田市）は、成田国際空港への所要時間の短縮による国際競争力の強化や災害時における道路のネットワーク強化などに寄与するとともに、成田市内の交通渋滞を緩和し、交通の円滑化を図る重要な道路です。</p> <p>本年3月に、国施工区間が全線暫定2車線で供用されたことで、印西市方面から成田市への所要時間が大幅に短縮し、地域の利便性が向上したところです。</p> <p>近年では、北千葉道路沿線の千葉ニュータウン地区において、大型の物流施設等の立地が進んでおり、また、成田国際空港の機能強化が予定されていることから、北千葉道路の整備効果を、さらに高めるため、4車線化が必要です。</p>  |   |  |   |           |                         |

については、早期完成に向け事業を推進するとともに、コスト縮減を図るなど、効率的な事業推進に努められたい。

事業評価監視委員会の意見

事業の継続を了承する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

平成22年に鉄道事業（成田スカイアクセス）が開業。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成17年度に都市計画決定、平成17年度に事業化。
- ・北千葉道路の用地取得率は100%（平成31年3月末時点）。
- ・平成31年3月に全線暫定（2車）開通済み。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・全線4車線化について、暫定2車線整備後の交通状況や、隣接する千葉県の整備状況を踏まえ、関係機関と調整を図る。

施設の構造や工法の変更等

- ・並走する鉄道事業（成田スカイアクセス）の先行開業に伴い、道路の施工段階において近接施工協議を実施した結果、道路構造（法面→直壁）および軟弱地盤対策（プレロード→地盤改良）を変更。
- ・これに伴い、建設発生土について、当初は鉄道用地も含めた現場内での仮置きを計画していたが、近傍の一時仮置き場（L=24km）に搬出。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。